

但馬皇女の御歌一首

一五一五番

言ことしげ繁さかき 里さとに住すまずは 今け朝さ鳴なきし 雁かりにたぐひ  
て 行ゆかましものを

山部王、秋葉を惜しむ歌一首

一五一六番

秋山あきやまに もみつ木の葉はの うつりなば 更まじにや秋あき  
を 見みまく欲ほりせむ

長屋王の歌一首

一五一七番

うまさけ 三輪みわの社やしろの 山照やまてらす 秋あきの黄葉もみぢの  
散ちらまく惜おしも